

巡礼者イニゴ

聖イグナチオ・デ・ロヨラの劇的な生涯の劇

鹽野 めぐみ

22

第六幕 第2場

1522年3月25日夕刻

マンレサにて

登場人物： 巡礼者 イニゴ・デ・ロヨラ
 マンレサの人 イニェス・パスクアル夫人

【語り】イニゴは朝モンセラットを発ち夕刻マンレサに着きました。一夜の宿を借りようと、通りがかりの人に道を聞いたとき、イニゴの問いに答えたイニェスは、連れ的女性たちと別れ、イニゴの後を追います。

イニェス：あの方、マンレサは初めてのようよ。私の教え方で良かったかどうか、ちょっと見てくるわ。(イニゴの後を追い、すぐに追いついて……)

もしもし、お迷いになるといけないから私をご案内いたしましょう。

イニゴ：それはご親切に、有難うございます。全く初めての町なので、助かります。

イニェス：マンレサには長くご滞在ですか？

イニゴ：いいえ、数日のつもりです。静かに祈り、少し書き物ができるところがあればありがたいのですが。

イニェス：とりあえず今夜は慈善院にお泊りいただき、明日ベネディクト会の修道院など、ミサや聖務の祈りに与かりやすいところを探しましょう。よろしければ、私どもの家にお泊りくださってもいいですよ。

イニゴ：ご親切なお申し出に感謝します。あまり人に会ったり話したりせずに、砂漠の隠者のように祈ったり苦行したり出来る所がありますか？。

イニェス：町はずれにはいくつか岩穴があって、むかし修道士が孤独を求めて

そこで生活したこともあったと聞いています。

イニゴ： それはいい。どの方角ですか？

イニェス： いつかご案内しましょう。さあ慈善院に着きました。今夜はここで
お休みください。

イニゴ： ありがとうございます。お休みなさい。

【語り】はじめは数日のつもりでいたマンレサ滞在は、実際には11ヶ月近くに及び、イニゴの霊的生活に決定的な影響を及ぼす試練や悟りの場となりました。イグナチオ（イニゴ）自身の霊操の時期であり、のちにほかの人にも役立つように考案した『霊操』の骨格は、マンレサにおいて出来上がったものです。

このイニェス・パスクアル夫人は、その後も何くれとなくイニゴの世話をするうちに、イニゴを深く尊敬するようになり、生涯イニゴの指導を仰ぐようになりました。（注）

【白衣の天使の合唱】

ああイニゴ ^{やかた} 館に生まれ	宮中の 暮らしに慣れし
騎士なれど 貧しくなりて	慈善院の 門をたたきぬ
身だしなみに 心を碎き	髪をなで 爪を磨きし
若き日の 虚栄を恥じて	今は髪 伸びるに任す

（注）3年後イニゴは、バルセロナから、友人をなくして悲しんでいるイニェス夫人に、慰め励ます返事の手紙を書いている。

「あなたが主に仕える大きな望みを持っておられることを知っていますので、どうしても手紙を書かなければと思いました。・・・神への愛ゆえに申し上げます。前に進む姿勢を失わないようにし、そのために不都合なことはすべて避けて下さい。・・・私たちの努力と働きが神の恵みを受け、弱く悲しみに満ちた心が神を賛美するため、強く喜びに満ちたものとなるように祈ります。

1525年、聖ニコラスの祝日にバルセロナにて

貧しい巡礼者イニゴ